丹波市総合計画　令和5年度　施策評価シート

まちづくりの目標	6	丹波力を活かした創意ある元気なまち
施策目標	4	【恐竜】恐竜を活かしたまちづくりの輪を広げよう
施策の展開	① ② ③	丹波竜化石工房の更なる機能の充実 丹波竜化石をはじめとする地域資源・学習教材としての活用 にっぽん恐竜協議会等の連携協力による全国的な連携事業の展開

施策担当課	恐竜課
関係課	恐竜課

1　施策の現状・推移

5年後のまちの姿	・丹波竜化石工房拡充基本計画に基づく展示や機能拡充とともに、誘客のコア施設である元気村かみくげの石割発掘体験と連携することで交流人口が増加しています。 ・教育普及専門員による新たなワークショップや学習プログラムの開発により、学校教育、社会教育に活用しています。 ・恐竜を活かしたネットワークの拡大として、恐竜化石を活かしたまちづくりを行っている自治体との連携協力による恐竜を活かしたまちづくりが推進されています。

2　成果指標・コストの推移

		単位	区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
成果指標	丹波竜化石工房への年間延べ来場者数	人	目標	66,000	66,000	66,000	66,000	66,000	70,000	
			実績	59,472	52,326	57,856	75,694	51,572		
	丹波竜ホームページの年間延べアクセス数	ビュー	目標	130,000	130,000	150,000	230,000	230,000	230,000	
			実績	165,833	221,531	310,575	353,924	228,177		
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							
コスト	人件費	千円	実績	32,200	41,640	49,900	39,815	41,080	—	
	事業費	千円	実績	65,778	42,942	54,476	44,709	34,072	—	
	計	千円	実績	97,978	84,582	104,376	84,524	75,152	—	
	うち一般財源	千円	実績	69,530	75,762	84,972	55,055	57,633	—	

3　環境変化

国・県の方針、関連法令の動向	—
市民ニーズの動向	社会教育施設としての施設機能や教育普及に向けた役割が求められるため、丹波竜化石工房拡充基本計画に基づき、展示標本や展示資料の管理ためのバックヤード整備や学習・調査機能などの整備を進めることにより、施設機能や教育普及への充実を図る。

4　評価

目標の達成状況は順調か。達成していない原因は何か。	丹波竜化石工房や発掘現場への入館者・来場者の推移は、コロナ禍の規制が緩和されるにつれ、人の行動範囲が広域化・分散傾向にあり、目標値より低下した。また、丹波竜ホームページアクセス件数についても、入館者・来場者の推移の背景・分析同様に目標値より減となった。
環境変化を踏まえた施策展開となっているか。	・丹波竜化石工房の充実については、エデュティンメイト（楽しみながら学ぶ）を基本として、セミナーやワークショップの充実と共に、市民をはじめとした幅広い年齢層の来訪者が集う魅力ある施設づくりを進めるとともに、教育普及専門員による展示内容の充実や教育普及活動により、機能拡充を図る。 ・発見現場周辺の運用や整備については、発掘現場と化石工房との連携をより強め、体験学習を通じた自然の豊かさや大切さを再認識しながらより深く学べるよう事業を推進していく。 ・篠山層群のフィールドミュージアム構想に基づき、明確な役割分担の下、連携を強化する。 ・にっぽん恐竜協議会構成自治体との「竜学」などの交流などが図れるよう、恐竜化石を活かしたまちづくりへの連携協力を図る。
事業の構成や役割分担で見直しの余地がないか。	—

5　今後の改革方向

施策の今後の方向性、構成する事務事業の見直し案	・丹波竜化石工房拡充基本計画に基づく施設整備や、事業及び運営体制の構築。 ・丹波竜化石発見現場周辺の地元管理体制の調整と確立。 ・人と自然の博物館や県民局、丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会との連携。 ・にっぽん恐竜協議会（北海道むかわ町・熊本県御船町・群馬県神流町、兵庫県丹波篠山市、福井県勝山市、岩手県久慈市、徳島県勝浦町、石川県白山市、熊本県天草市、鹿児島県薩摩川内市）による恐竜化石を活かしたまちづくりネットワークの拡大や連携協力を図る。

●構成する事業一覧　（令和　5　年度実施事業）

事務事業名	予算小事業名	人件費【千円】	事業費【千円】	計・千円	うち一般財源	必要性	効果性	コスト	公平性
恐竜を活かしたまちづくり事業		31,912	29,755	61,667	48,970	A	A	B	該当なし
	丹波竜活用事業								
丹波竜施設管理事業		9,168	4,317	13,485	8,663	B	A	B	A
	丹波竜施設管理事業								
合計		41,080	34,072	75,152	57,633				

丹波市総合計画　令和　5　年度事務事業評価　／　令和　6　年度実施計画

事務事業名	恐竜を活かしたまちづくり事業				
事業担当課	教育部　恐竜課			事業期間	平成　18　～　無期　年度
	所属長	松枝　満	担当	足立　渡	担当

位置づけ			
総合計画	まちづくり目標	【６】丹波力を活かした創意ある元気なまち	
	施策目標	4【恐竜】恐竜を活かしたまちづくりの輪を広げよう	
創生総合戦略	基本目標	【３】地域の魅力や人のつながりを活かして移住・定住につなげる	
	施策	【3-2】 地域資源の魅力を活かす	
まちづくりビジョン	取組項目	(7)観光による地域振興	
根拠法令・個別計画等	丹波竜化石工房拡充基本計画		

計画（PLAN）

事務事業			
対象（誰を、何を）	市民をはじめとする丹波竜化石工房の来館者・化石発見現場来場者等		
目的 ベストな状態 （期待される効果）	・丹波竜化石をはじめとする地域資源の発掘や、地域資源を活用した体験型学習などにより誘客を増やすと共に、自然や篠山層群の環境を通じた学校教育、社会教育への学習教材として活用する。 ・恐竜を活かしたネットワークの拡大を図ると共に、市の恐竜を活かしたまちづくりと教育普及を推進していく。		
概要 （具体的手段・全体計画）	・篠山層群を活用した恐竜化石や環境学習等（ワークショップ・セミナー等）を実施する。 ・丹波竜化石工房の充実や情報発信を図り、誘客のコア施設により来館者を増やす。（丹波市観光協会業務委託） ・恐竜化石発見現場周辺及び、上滝発電所記念館の管理運営や石割発掘体験などにより交流人口を増やす。（上久下地域自治協議会業務委託） ・恐竜を活かしたネットワークの拡大として、恐竜化石を活かしたまちづくりが行われている自治体と連携協力を行い、より一層の本市の恐竜を活かしたまちづくりを推進していく。（にっぽん恐竜協議会による協力連携） ・丹波竜化石工房拡充基本計画に基づく拡充工事関連業務の業者選定及び契約事務を実施する。		
令和５年度の事業概略	丹波竜活用事業 ・丹波竜の里PR宣伝及び施設の管理業務 ・丹波竜化石工房ちーたんの館物品販売業務 ・丹波竜化石工房夏期特別展、丹波竜フェスタ開催等 ・丹波竜の里公園周辺整備事業 ・丹波竜化石工房拡充基本計画に基づく整備事業	令和６年度の事業概略	丹波竜活用事業 ・丹波竜の里PR宣伝及び施設の管理業務 ・丹波竜化石工房ちーたんの館物品販売業務 ・丹波竜化石工房夏期特別展、丹波竜フェスタ開催等 ・丹波竜の里公園周辺整備事業 ・丹波竜化石工房拡充基本計画に基づく整備事業

実施（DO）

コスト（単位：千円）（評価年度は実績、計画年度は予算）	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	備　考
歳出　総事業費　Ａ＋Ｂ	79,048	51,364	62,420	70,552	61,667	334,557	
直接事業費Ａ	59,230	26,553	26,709	39,799	29,755	302,645	
総人件費計（Ｅ+Ｈ）Ｂ	19,818	24,811	35,711	30,753	31,912	31,912	
職員従事者数（人・年）Ｃ	2.07	2.38	3.33	2.92	3.11	3.11	
【平均人件費】Ｄ	7,400	7,460	7,620	7,430	7,540	7,540	
人件費Ｅ＝Ｃ×Ｄ	15,318	17,755	25,375	21,696	23,449	23,449	
会計年度任用職員従事者数（人・年）Ｆ	2.25	2.99	4.38	3.58	3.10	3.10	
【平均人件費】Ｇ	2,000	2,360	2,360	2,530	2,730	2,730	
人件費Ｈ＝Ｆ×Ｇ	4,500	7,056	10,337	9,057	8,463	8,463	
歳入　特定財源	23,305	3,918	14,190	22,364	12,697	292,710	
国・県支出金	17,184	3,646	7,040	15,146	974	0	
借入金（地方債）	0	0	0	0	400	271,400	
受益者負担金	0	0	0	0	0	0	
その他特財	6,121	272	7,150	7,218	11,323	21,310	
一般財源	55,743	47,446	48,230	48,188	48,970	41,847	

	指標名	単位		令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	備　考
成果	丹波竜化石工房年間入館者数	人	目標	66,000.0	66,000.0	66,000.0	66,000.0	66,000.0	70,000.0	
			実績	59,472.0	52,326.0	57,856.0	75,694.0	51,572.0		
成果	発掘現場への来場者数	人	目標	31,000.0	31,000.0	31,000.0	42,000.0	42,000.0	42,000.0	
			実績	39,305.0	41,666.0	41,717.0	47,982.0	36,056.0		
活動	ちーたん着ぐるみ貸出・出役数	回	目標	130.0	130.0	130.0	130.0	130.0	130.0	
			実績	74.0	24.0	16.0	51.0	57.0		
成果	丹波竜ＨＰアクセス数	回	目標	130,000.0	130,000.0	150,000.0	230,000.0	230,000.0	230,000.0	
			実績	165,833.0	221,531.0	310,575.0	353,924.0	228,177.0		
コスト			目標							
			実績							
コスト			目標							
			実績							

指標の推移等の背景・分析	
	・丹波竜化石工房や発掘現場への入館者・来場者の推移は、コロナ禍の規制が緩和されるにつれ、人の行動範囲が広域化・分散傾向にあり、目標値より低下した。 ・丹波竜ホームページアクセス件数についても、入館者・来場者の推移の背景・分析同様に目標値より減となった。

事務事業名	恐竜を活かしたまちづくり事業		
事業担当課	教育部　恐竜課	事業期間	平成　18 ～　無期　年度

評価（CHECK）

事務事業全体の実施（DO）に対する、事務事業の展開の評価・課題について

評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
(必要性) 市民にとって必要な事業か。	A	地域資源（丹波竜の里・篠山層群）を有効に活用し、地域に根差した社会教育施設の拠点として事業展開するための重要な施策である。	(コスト) 改善・改革等により更に低コストで実施できないか。(サービス・成果は維持)	B	恐竜化石だけでなく、豊かな自然環境を活かした体験学習等の実施など、教育普及の充実に向けた実施計画が必要である。
(効果性) 成果につながっているか。進捗は予定どおりか。※成果指標に対する評価	A	恐竜化石発見現場周辺や化石工房の展示物の充実を図ってきた結果、目標指標としての一定の成果や、ホームページやＳＮＳの活用により、特別展や施設情報の啓発については、効果的に推移している。	(公平性・受益者負担) 公平性に問題はないか。受益者負担検討の余地はないか。	該当なし	

改革（ACTION）

総合的な評価と課題（成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など）

【評価】
・丹波竜化石工房や発掘現場への入館者・来場者の推移は、コロナ禍の規制が緩和されるにつれ、人の行動範囲が広域化・分散傾向にあり、目標値より低下した。
・丹波竜ホームページアクセス件数についても、入館者・来場者の推移の背景・分析同様に目標値より減となった。
【課題】
・発見現場周辺の整備については、地元の協力を得ながら恐竜化石だけでなく、自然豊かな自然環境を活かすとともに、発掘現場と化石工房との連携をより強め、体験学習を通じ自然や人々の豊かさや大切さを再認識しながら化石などについてより深く学べるような事業の推進が必要である。
・丹波竜化石工房の展示内容の充実や、教育普及専門員による教育プログラム等教育普及活動により化石工房の機能拡充を図る必要がある。

今後の方向性・改善策等

・丹波竜化石工房の展示内容の充実や、教育普及活動により化石工房の機能拡充を図るため、拡充工事を行い、令和7年7月にリニューアルオープンする。
・丹波竜の里公園周辺の整備について、地元の要望や協議を行いながら整備を行う。
・発見現場周辺の地元管理体制の調整と確立。
・人と自然の博物館や県民局、丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会との連携。
・にっぽん恐竜協議会を活かしたネットワークの拡大。（北海道むかわ町・熊本県御船町・群馬県神流町、兵庫県丹波篠山市、福井県勝山市、岩手県久慈市、徳島県勝浦町、石川県白山市、熊本県天草市、鹿児島県薩摩川内市との連携協力）

成果・コストの方向性

成果の方向性 ＼ コスト投入の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				✓
現状維持				
縮小				
休廃止				

●構成する予算小事業一覧　（単位：千円）

No.	予算小事業	コスト（評価年度は実績、計画年度は予算）					備考
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1	丹波竜活用事業	26,553	26,709	39,799	29,755	302,645	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
合計		26,553	26,709	39,799	29,755	302,645	

●外部評価　【　】年度実施

指摘事項など		対応状況	

丹波市総合計画　令和　5　年度事務事業評価　／　令和　6　年度実施計画

事務事業名	丹波竜施設管理事業				
事業担当課	教育部　恐竜課		事業期間	平成　25 ～　無期　年度	
	所属長	松枝　満	担当	足立　渡	担当

位置づけ			
総合計画	まちづくり目標	【６】丹波力を活かした創意ある元気なまち	
	施策目標	4【恐竜】恐竜を活かしたまちづくりの輪を広げよう	
創生総合戦略	基本目標		
	施策		
まちづくりビジョン	取組項目		
根拠法令・個別計画等			

計画（PLAN） 事務事業			
対象（誰を、何を）	丹波竜化石工房への来館者や、丹波竜の里等への来場者等		
目的 ベストな状態 （期待される効果）	拠点施設である丹波竜化石工房及び、丹波竜の里のPRなどにより、効果的な市内外の誘客や、施設の適正な維持管理を行う。		
概要 （具体的手段・全体計画）	・丹波竜化石工房の受付等維持管理業務（丹波市シルバー人材センター業務委託等） ・上滝発電所記念館の維持管理及び、恐竜化石発見現場周辺の維持管理保守点検及び機械警備等、丹波市シルバー人材センター業務委託等）		
令和５年度の事業概略	丹波竜施設管理事業 ・丹波竜化石工房ちーたんの館受付等業務 ・丹波竜.comホームページ管理運営業務 ・施設等の保守点検及び機械警備等による維持管理業務	令和６年度の事業概略	丹波竜施設管理事業 ・丹波竜化石工房ちーたんの館受付等業務 ・丹波竜.comホームページ管理運営業務 ・施設等の保守点検及び機械警備等による維持管理業務

実施（DO）

コスト（単位：千円）（評価年度は実績、計画年度は予算）	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	備　考
歳出　総事業費　A＋B	18,930	31,952	41,956	13,972	13,485	14,292	
直接事業費A	6,548	15,123	27,767	4,910	4,317	5,124	
総人件費計（E＋H）B	12,382	16,829	14,189	9,062	9,168	9,168	
職員従事者数（人・年）C	0.93	1.62	1.67	1.08	0.89	0.89	
【平均人件費】D	7,400	7,460	7,620	7,430	7,540	7,540	
人件費E＝C×D	6,882	12,085	12,725	8,024	6,711	6,711	
会計年度任用職員従事者数（人・年）F	2.75	2.01	0.62	0.41	0.90	0.90	
【平均人件費】G	2,000	2,360	2,360	2,530	2,730	2,730	
人件費H＝F×G	5,500	4,744	1,463	1,037	2,457	2,457	
歳入　特定財源	5,143	4,902	5,214	7,105	4,822	2,623	
国・県支出金	535	248	0	0	0	0	
借入金（地方債）	0	0	0	0	0	0	
受益者負担金	0	0	0	0	0	0	
その他特財	4,608	4,654	5,214	7,105	4,822	2,623	
一般財源	13,787	27,050	36,742	6,867	8,663	11,669	

	指標名	単位		令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	備　考
成果	旧上久下村営上滝発電所の不具合・トラブル件数	件	目標	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
			実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
成果	丹波竜化石工房の不具合・トラブル件数	件	目標	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
			実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							
コスト			目標							
			実績							
コスト			目標							
			実績							

指標の推移等の背景・分析	
	丹波竜化石工房や発掘現場への入館者・来場者数は、コロナ禍の規制が緩和されるにつれ、人の行動範囲が広域化・分散傾向にあり、目標値より定価したが、施設の不具合やトラブルにつながるような事案はなかった。

事務事業名	丹波竜施設管理事業		
事業担当課	教育部　恐竜課	事業期間	平成　25 ～　無期　年度

評価（CHECK）

事務事業全体の実施（DO）に対する、事務事業の展開の評価・課題について

評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
(必要性) 市民にとって必要な事業か。	B	適正な施設の維持管理運営を行うことで、発見現場・化石工房の来訪者の誘引が図れる。	(コスト) 改善・改革等により更に低コストで実施できないか。(サービス・成果は維持)	B	コロナ禍以前の状況に戻りつつあり、来館者・来場者が今後増えていくことも見込まれるが、低コストを考慮しつつ適正な施設の維持管理及び整備に努めながらサービスの向上を図っている。
(効果性) 成果につながっているか。進捗は予定どおりか。※成果指標に対する評価	A	適正な丹波竜化石工房及び、発見現場周辺施設の維持管理に伴う運営や連携を図ってきた結果、トラブルや不具合はなかった。	(公平性・受益者負担) 公平性に問題はないか。受益者負担検討の余地はないか。	A	丹波竜化石工房及び発見現場周辺施設は、特定の者だけが利用する施設ではなく、本市の財産であることから、特定の者に対して事業負担金を徴するものではない。ただし入館料として大人210円、小中学生100円を徴収しており、ワークショップやセミナー受講者からは受講料を徴収している。

改革（ACTION）

総合的な評価と課題（成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など）

【評価】
適正な丹波竜化石工房及び、発見現場周辺施設の維持管理に伴う運営や連携を図ってきた結果、トラブルや不具合はなかったが、今後も関係団体との協力連携や、発見現場周辺施設の維持管理については、コミュニティビジネスの創設など地域が自立できる仕組づくりを支援など、地域主体の管理体制を維持していく。

【課題】
・平成22年に丹波竜化石工房がリニューアルオープンしてから10年以上が経過し、保有する化石標本などが増えたことにより、特別展の開催などの展示スペースの確保や、資料保管に苦慮している。
・発見現場周辺施設の維持管理（業務委託）に関わる地域構成会員の世代交代や、集客につながる運営の仕組みづくりの構築。

今後の方向性・改善策等

・発見現場周辺の地元管理体制・連携の確立や、コミュニティビジネスの創設に向けた地域支援の継続。
・丹波竜化石工房拡充に伴う適正な施設の運営や維持管理。

成果・コストの方向性

成果の方向性 ＼ コスト投入の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
拡充				
現状維持			✓	
縮小				
休廃止				

●構成する予算小事業一覧　（単位：千円）

No.	予算小事業	コスト（評価年度は実績、計画年度は予算）					備考
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1	丹波竜施設管理事業	15,123	27,767	4,910	4,317	5,124	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
合計		15,123	27,767	4,910	4,317	5,124	

●外部評価　【　　】年度実施

指摘事項など		対応状況	